

第2次福井県男女共同参画計画（仮称）策定に当たり
意見を聴く会（嶺北地区）概要

1 開催日時、会場

平成22年12月21日（火）15：00～16：35

会場 坂井市坂井地域交流センター「いねす」

2 参加者数

124名

3 意見聴取（18名）

テーマ1	「意識改革と男女共同参画の理解促進」	3名（女性3）
テーマ2	「女性の能力発揮と仕事と家庭の両立」	4名（男性1 女性3）
テーマ3	「地域における男女共同参画の推進」	4名（男性1 女性3）
その他	男女共同参画の推進全般	7名（男性2 女性5）

4 主な意見

○ 「意識改革と男女共同参画の理解促進」

- ・生活学習館で地域リーダー養成講座を開講しているが、誰を対象にプログラムを作っているのかわからない。受講者数も減っており、修了者のふくいソフィアの会への入会も減っている。生活学習館はもっと熱意を持って取り組んでほしい。（坂井市 女性）
- ・男女共同参画が進まない要因として、情報交換や行政と連携するための活動拠点施設の整備が進んでいないからではないか。まだ活動拠点を整備していない市町が多いので、県はリーダーシップを持って指導してほしい。（坂井市 女性）
- ・地域、事業者、団体が分担して意識啓発を進める上で、県は市町が実施している男女共同参画事業の進捗状況を把握して、その内容を広く情報提供すべき。
市町の一年間の実績や評価等を把握した上で、次の年度の事業につなげるための会議を開催すべき。
新しい計画の期間は5年とすべき。（福井市 女性）

○ 「女性の能力発揮と仕事と家庭の両立」

- ・放課後子どもクラブは、留守家庭の子どもを預かることで親の両立支援を行っているが、小学校の空き教室の利用や見張りなど子どもの自発的な活動を制限している。子どもは、自発的な活動によって得られた達成感、満足感を得て育っていくものであり、子どもの育ちを重視した視点に改善すべき。（坂井市 男性）
- ・男性の日常的生活の自立が必要であり、子どもの時から男性に対して自立した生活ができるよう育てるべき。（越前市 女性）

- ・漁村の女性は、男性の補佐という考え方が長く培われてきたが、最近嶺南で4名、嶺北で4名の女性漁業士が誕生した。組合役員についても副会長への女性登用を目指していきたい。県漁連女性部では、女性活躍に積極的に取り組んでいる。(越前町 女性)
- ・男性の育児休業取得を進めるために、企業への県の支援策はどのようなものがあるのか。(福井市 女性)

○ 「地域における男女共同参画の推進」

- ・障害者の就職について、仕事の確保、待遇の改善をしてほしい。
障害者が施設の外で、地域社会の一員として、住民の中に受け入れられるよう、行政しかできないことをしてほしい。(福井市 女性)
- ・越前町男女共同参画ネットワークでは、役場を訪問し、男女共同参画プランの進捗状況を学習し、その結果を情報提供する活動を通じて、会員だけでなく区長、壮年会などの役員も参加して勉強会を進めてきた。その結果、12月に区長会連合会で地域における男女共同参画推進に関する決議につながった。(越前町 女性)
- ・農業の六次産業化がいわれているが、がんばっている所は女性の参画が進んでいる。多角化の取り組みには女性の活躍がますます必要である。女性の活躍が企業、地域、農業を伸ばすという観点から、女性が様々な分野に入りやすくなるようバックアップをしてほしい。(福井市 男性)
- ・JAでは、女性組合員の割合を20%に、JA総代をJA女性部で10%にしたい。また、県内17JAの女性役員は現在7人だが、各JA2人ずつにしたい。坂井市の農業委員は昨年4名の女性を出している。ぜひ福井市など他の市町も女性の農業委員を増やしてほしい。(坂井市 女性)

○ 男女共同参画の推進全般

- ・NPO法人ふくい女性フォーラムで、DV被害者の支援、女性のための電話相談を行っている。事務所兼民間シェルターの運営は、寄附で賄われている。県と連携事業を行っているが、さらにDV被害者支援に対する、助成金の仕組みを作してほしい。(福井市 女性)
- ・福井県の特徴である三世代同居は、食育や教育にプラスに働くが、三世代同居で女性が感じるストレスや精神的暴力、経済的暴力が意外に多いことを伝えてほしい。
女性に対する暴力の問題の解決を着実に進めるよう、普及啓発を新しい計画に盛り込んでほしい。また、市町での相談業務については、役場の人に顔見知りが多く、相談しづらいことも理解してほしい。(福井市 女性)
- ・年収200万円以下のワーキングプア1,000万人の約7割から8割が女性であることから、非正規労働者、パート、アルバイトの女性の自立には経済的な自立が必要。
30代、40代男性の固定的役割意識が肯定的であるのは、男性は長時間労働の中で子育てができ

ず、子育ては女性に見てほしいと思う人が多いためである。

男女が家庭でも社会でも、一緒に参画し、一緒に考えていくためには、男性の長時間労働の解消を進めるべき。

子育て中の女性の再就職のため、すぐに預かってもらえる保育所が少ないという声をよく聞く。職場復帰したい時に、年度途中でも預かってもらえるようにしてほしい。(福井市 女性)

- 福井県では、女性が政策、方針決定の場に参画できないことが、優秀な若い女性が福井県に戻ってこない理由の一つである。40代にとって介護の問題が大きくなっていく。福井県が介護、医療の先進県となれば、優秀な女性の雇用拡大になり、優秀な人材が集まってくる。発想の転換によって福井県の大きなメリットにつながることを立案していかねばならない。
女性が元気を出しても、家族、企業の応援がないと女性は元気になれない。女性の元気を支えるのは、企業であり、夫である。(越前市 女性)
- 計画の推進に当たっては、県民、行政、企業、団体の役割と責務を施策体系の中で明確にすべき。男女共同参画推進の拠点施設である生活学習館に指定管理制度を導入するなど思い切った施策を進めるべき。(福井市 男性)
- 新しい計画では、10年間の施策の成果、評価、課題を提示すべき。その情報を県民が共有して計画を策定してほしい。
県民、男女共同参画ネットワーク、民間事業者が共同で進めるテーマを設定すべき。
県民が施策のすべてを理解することはできない。重点施策を設けて、県民、企業、団体が一緒に取り組む計画にしてほしい。
子育ては男女が責任をもって行うことを明記すべき。そのためには父子手帳を配布すべき。
推進員体制について、県の男女共同参画推進員は顔が見えない。県と市町との推進員の連携を図ってほしい。
市町の先進的な施策の事例、例えば集落単位でモデル地域に指定して事業を実施している例などを調査し、ノウハウなどの事例集を作成すべき。
市町のプランの見直しや条例改正などについて、情報提供するなど、県はバックアップしてほしい。
(福井市 女性)
- 地域の男女共同参画推進の中心的人たちは、もっとそれぞれの自分の地域に活動を下ろし、地域に帰って活動してほしい。(女性)